

慈 恵

十五歳で、四十二キログラム。途中結石になり、入院をくり返した時期もありましたが、何度も乗り越え立派な体格に成長。

陸亀の苦手な冬が来ると、暖房三十度にして部屋を暖めても、外気が寒いと感じるのか毎年、食事が落ち、あまり動かず、排せつも十日に一回位になつてしまいます。

そんなある冬、死にかけていた子猫を保護し、飼う事に。子猫は、大きな体の陸亀をお母さんと思いい、甘えて寄りそい、その度に暖めている亀の部屋を出入りするので、室温が下がっている事に気づきませんでした。

突然、全く食べなくなり、見るからに元気がないので、病院へ。家で、薬や温浴、日光浴、点滴を夫と毎日続けましたが、

一向に良くならず、爬虫類専門の病院を探し行ってみると、この状態で生きていたのが不思議です

と言われました。やれる事を頑張ってみましょうとの言葉に、回復を祈り家で指示された治療を続けました。数日後、祈りが届いたのか、葉をのせた葉っぱを食べてくれました。喜んでいたのもつかの間、体全体がむくみ口をあけて、意識混濁状態に。見てるのが辛く、祈りは、「ケジュを薬にして下さい。」に変わりました。そして、潮が引く様に朝方眠りにつきました。慈恵院から仲間の元へ。十五年間、私達に寄りそい楽しませてくれて有難う。後悔が残るけど、その大きな背中とは、いつ迄も私達の心の中に。忘れないよ！

冬じよみ

2月	1月	12月	
2/11 涅槃会	1/1 修正会	12/31 除夜の鐘 12/3 成道会	当山行事
2/19 薩埵富士雪縞あらき 雨水かな(富安風生)	1/5 小寒 1/20 大寒 月よかな(一茶)	12/7 大雪 藤落葉(涙人) 12/22 冬至 粥くふも物しりらしき 冬至かな(一茶)	二十四節気
2/11 建国記念の日	1/7 人日の節句(七草) 1/8 成人の日	12/23 天皇誕生日	祝日等

「こよみ事典」東京美術 参考

# 経 験 と 心

田柄動物病院

院長 池田 丞

先日、慈恵院の方とお話しする機会があり「獣医師は何を思い、何を考えながら診療をしているのか？」という話題になりました。それを改めて考えてみると「飼い主さんは何を困らせていてどうしてほしいのか？それに応えるのはどうしたら良いか？」という一点に尽きます。これは私だけではなく現場で診療をしている多くの獣医師がそうであるでしょう。予防関係や比較的簡単に治療できる疾病は飼い主さんの希望・期待に応えるのは

難しくないが、逆になかなか治らない病気や治療が長引く病気は完全に期待に応えることはできない場合も多い、それだけでなく治療しても亡くなる場合さえもある。

獣医師を信用信頼し大事な命を任せて頂き快方に笑顔でお礼を言われるのはこの上なく嬉しい事ですが、その反面逆の悪い結果で飼い主さんに涙ながらにお礼を言われるのは申し訳なくつらい時間でもある。100頭診て100頭期待に応えて治し元気にできれば何

も考えずにいられるのだが、上手くないかときき何が悪いのか？Aという治療ではなく、Bという治療の選択肢を選んだらどうだったか？今なら治療方針を変えられるのか？最善の選択肢は何なのか？自分は正しいのか？可能性は？などと自問自答したり先輩後輩に意見求め答えがあるような見ようなものを手探りで探す日々だったりします。

例えば答えが見つからなくても考えることを辞めれば獣医師として成長はなくなるわけでそれは飼い主さんや動物たちに申し訳ない。

開業当時の若かりし頃、経験が少ない故に「どんな病でも何が何でも治す」という無茶ともいえる強

い信念が何年もの経験と多くの挫折や死を経験することにより「これは厳しいかも」と先読みすることが時にあるがこれは心が弱いからかもしれない。先が厳しくとも「何が何でも治す」という若いころの信念で治療に挑み、例えば結果が得られなくともまた挑むという心でいなくては…とこの記事を書くことによつて再考できました。

学会やセミナーに出席し新しい治療方法を手するより「心」を鍛えるという方が数段難しいかもしれません。

考え方という「心」と過去の色々な「経験」が合い重なればより良い治療を提供できるものと思いきじ今後診療していきたいと思つています。



# 潰瘍性大腸炎

ながた内科クリニック

院長 永田 宏

TEL04-11690707

潰瘍性大腸炎による慢性的な下痢や腹痛に悩む人が増えています。20〜30歳代が発症のピークですが、男女問わず、若い人から高齢者まで発症する病気です。

原因が不明で根本的な治療法が確立されていない特定疾患（難病）ではあるものの、完治を目指す治療法の研究も進んできています。潰瘍性大腸炎とはどのような病気なのか、知っておきましょう。



大腸に炎症や潰瘍が  
でき慢性的な下痢や  
血便に

大腸は、全長1.5〜2mの長い臓器で、水と電解質を吸収し、消化吸収されなかった食物や老廃物を肛門ま

で運ぶ役割を果たしています。大腸の最も内側の層である粘膜にびらん（ただれた状態）や潰瘍ができて、炎症を起こす病気が潰瘍性大腸炎です。主な症状は下痢と血便、腹痛です。炎症が広がると腸の粘膜から水

分が吸収できなくなるので頻繁に下痢を起こします。急な下痢で1日10〜20回トイレに駆け込む人も少なくありません。重症化すると潰瘍から出血したり、腸の炎症から激しい腹痛が起こります。長引く下痢や腹痛、血便を認めた場合、かかりつけ医か消化器内科を受診しましょう。



食生活の欧米化が  
影響か 薬で症状  
をコントロール

この病気は日本ではもともと少なく、1990年代前半の患者数は約2万人程度でした。ところが、この20〜30年で急激に患者数が増え、2014年度には17万人を超えました。現在では、厚生労働省の特定疾患（難病）の中で、最も患者数が多い病気となっています。

す。ところで、潰瘍性大腸炎はなぜ発症するのでしょうか。その原因は未だ不明です。ただ、欧米諸国ではもともと多く、近年日本で患者数が増えていることから、欧米的な食生活や生活様式への変化によるものではないかとみられています。また、遺伝的な要因、ウイルスや細菌などの外敵から身を守る免疫機構の異常、腸内細菌の関与、心理的ストレスなど複合的な要因によって発症すると考えられます。治療は薬物療法が中心で、段階的に治療を変えていきます。まずは、ステロイド薬などと同じように5-ASA製剤（5-アミノサリチル酸製剤）で治療します。この薬では治療が難しい重症の患者さんには、副腎皮質ステロイド薬や免疫抑制薬を使います。これ

らの薬で炎症を抑えられない場合には、最先端のバイオテクノロジー技術を活用した**生物学的製剤**を投与します。この製剤は免疫に関わる物質の働きや炎症を起こす物質の産出を抑える働きがある注射薬です。インスリンのように自己注射が可能なタイプも出ています。さらに薬物療法では効果がでない場合は、手術が検討されることもあります。なお、潰瘍性大腸炎は医療費

助成制度の対象となる指定難病です。



心理的ストレスで  
再燃もバランスの  
よい食生活を

炎症や症状が治まった状態を**寛解**（かんかい）といいます。潰瘍性大腸炎は一般的に、寛解と**再燃**（さいねん）（炎症が再び生じること）を繰り返すことが多い慢性的な病気です。それでも、生物学的製剤の登場によって、寛解の状態を

長期間維持できる患者さんも増えてきました。心理的なストレスが強まると再燃する人も多いため、ストレスはためこめず、仕事や学業の上でのストレスとうまくつきあうようにしましょう。症状が落ち着いているときには、仕事や運動を必要以上に制限する必要はありません。病気にとらわれすぎず、趣味や旅行などを楽しむこともストレスの解消には大切です。食事については、ある程度症状が安定しているときは、過剰に制限をしなくてもよいで

しょう。強い香辛料や脂っこいものは控えめにする程度で、食事制限を厳格にしすぎる必要はありません。脂肪についてもアマニ油、えごま油などのαリノレン酸、魚などに含まれるDHA（ドコサヘキサエン酸）やDPA（ドコサペンタエン酸）などn-3系脂肪酸を多く含む脂質をとるほうが望ましいとされています。腸内細菌叢の改善にとつてはむしろ、バランスよく、多くの種類の食品をとることが重要です。



潰瘍性大腸炎は20～30歳代が最も多いが年齢を問わず発症する

**注目の便移植  
完治を目指し研究が進行中**

潰瘍性大腸炎について研究が進む中で、腸内細菌のバランスの乱れが、その発症や進行に関わっていることがわかってきました。順天堂大学医学部消化器内科では、2014年から潰瘍性大腸炎の患者さんに健康な人の腸内細菌を移植する新しい治療法の研究を進めています。

患者さんの腸内を抗菌薬で無菌に近い形にし、生理食塩水に溶かした健康な人の便を大腸内視鏡で注入して移植します。臨床の場面で使えるようになるには時間が必要ですが、腸内細菌のバランスを劇的に変える可能性を秘めた便移植は、世界的にも注目度の高い治療法です。

月例法要

於 竹生苑



毎月最終日曜日



盂蘭盆合同法要

於 瑞法殿



●本山：東京都府中市浅間町2-15-1 〒183-0001  
TEL.042-365-7676 FAX.042-336-3888  
URL <http://www.jikeiin.jp>

●足立別院：東京都足立区加平1-14-3 〒121-0055  
TEL.03-3628-7676 FAX.03-3628-7679

編集後記

▼ 今回は「潰瘍性大腸炎」をとりあげていただきました。食生活の欧米化が影響とか？ご用心く。

▼ 月例法要は今月も盛況でした。

▼ 早、今年も終らんとす。歲月は人を待たず…か。

来年のご多幸を祈念して筆をおきます。

丁酉師走 合掌

慈 恵 冬季号 No. 61

平成二十九年十二月一日発行

編集兼 永 田 恵 堂  
発行者

発行所 宗教法人 慈 恵 院

郵便番号 一八三〇〇〇一  
附属 多摩犬猫霊園

府中市浅間町二十五十一

宗教法人 慈恵院 編集部

〇四二一三六五七六七六  
山二印刷有限公司  
府中市浅間町三十四一九  
〇四二一三六一一五二二